

第1回 現役世代のがん対策推進検討会 議事要旨

1 日 時 令和8年5月26日(火)13:00~15:05

2 場 所 県公館第2会議室

3 協議事項 下記のとおり

(1) 兵庫県のがん対策について

事務局より資料1, 2の説明

(2) 治療と仕事の両立支援にかかる制度

兵庫労働局より資料3の説明

(3) 現役世代のがんの特徴とその対策

神戸大学大学院より資料4の説明

4 意見交換

(1) 予防・早期発見について

- ・科学的根拠に基づいたがん検診の受診が重要である。
- ・兵庫県はがん検診の受診率が低く、企業を含め様々な立場から意識を高めていく必要がある。
- ・がん検診について、メニューが豊富なので、企業側もどのようなメニューをいつ受けたらよいか、どれを選んだらよいかなど悩んでいるところが多いと感じる。
- ・検診を受けない理由の中には、がんと診断されると仕事を辞めないといけないう思い込みが、まだあるのではないかと。企業が治療と就業は両立できるということをアピールしていくことが大切。
- ・がん検診の必要性や治療を正しく理解するために、大人のがん教育も重要ではないかと。
- ・日頃から健康を意識することが大切で、市の広報などより身近な媒体で、住民に対して、がんになる以前の健康意識の重要性を訴えることも必要だと思ふ。
- ・がん検診の周知などは市町のHP等で実施しているものの、あまり閲覧してもらえていないのが現状である。
- ・会社として、両立支援の指針に則って、がんの相談窓口を設置し、だれに相談すればよいかわかって、両立支援があると知れば、仕事を辞めなくてはいけないという心配が減るので、検診の受診者も一定増えるのではないかと。
- ・中小零細企業については、法定の健康診断の取組みで精一杯なのが現状であり、さらにはがん検診を積極的になるとなかなか難しいと思ふが、社会が変わることで企業の意識も変わっていくので、粘り強い周知・啓発は大切だと思ふ。

(2) 医療体制や社会の整備について

- ・特に中小企業の場合、キーマンが休んでしまうと業務への影響が大きく、代替職員の確保も難しいのが現状である。フレキシブルな働き方など両立に頑張っている従業員に対するサポートがあればよい。
- ・がん相談支援センターの相談窓口は、使いにくく、患者やその家族、また院内の医療従事者への周知も十分でないと感じる。一方で、多岐にわたる相談への病院側のマンパワーも十分でない状況もあり、利用しやすさとの両面でどう対策を講じていくかが重要。
- ・がん相談の業務量が非常に多く、現状の体制では対応が難しいため、業務を整理し重点目標を明確にして取り組む必要がある。県として相談支援センターに求める役割を絞り込み、連携して進めることで、より効果的な対応が可能になると感じている。
- ・県で養成しているピアサポーターについても、スキルアップとその周知、病院等での活用条件の緩和など検討が必要。ピアサポーターが病院でしっかりと活動できれば、相談員の負担軽減にもつながるのではないかと。

(3) アピアランスケアについて

- ・所得制限の影響が大きく、高齢者世帯の申請がほとんどで、働く世代というよりは高齢者の支援となっている。
- 所得制限の撤廃をしている市町村では高齢者だけでなく、40代・50代の申請もある。
- ・費用を助成するというだけでなく、髪の毛がぬけたときの対応のなど現状をよく知ってもらうことが大切。
 - ・補助要件のウィッグは原則医療用に限られているが、医療用でなくても様々な価格帯のものもある。
 - ・助成のあり方は、予算の兼ね合いがあるので、助成状況も踏まえたうえで、例えば、助成額を下げたことで所得制限をなくすようなことも考えられるのではないかと。